

心はいつも
旅する
加藤 九祥

ユーラシアンホットライン

1998.11.30
VOL-11

1998年最後のユーラシアンフォーラムのお知らせ

日時：12月19日午後2時

場所：東京芸術劇場5階小会議室／JR池袋駅西口

スピーカー

①M. ビレグ／法政大学留学生（モンゴル国留学生）

「ストリートチルドレン支援子供基金について」

②イリーナ ティシナ／千葉大学留学生（サハ共和国）

「サハの昔の伝統祭事(祭日)」

話題

1. 子供基金への取り組み
2. モンゴルのドキュメンタリー映画上映運動
3. 今年の活動の反省と来年の方向性

- ・ユーラシアンフォーラムの開催方法と計画
- ・文化講座
- ・ホームページの運営について
- ・会報、ニュース発行について
- ・“ユーラシアンロードプロジェクト”
芸能祭、合宿、親善サッカー、写真展の開催
和チオン村、シベリア・サハ、タジキスタン、キルギスタンその他
- ・親睦旅行の開催方法と計画
- ・村おこし、医療・学用品支援について
- ・現地で続発する「横領行為」について
- ・クラブの活動の枠組みについて

色々ありますが、できることから楽しくやりましょう。

入場料：会場費として500円

【上記フォーラムの後は】1998年総会・忘年会／恒例のカニ食べ放題。

—テルミズ(中央アジア)仏教遺跡発掘支援—

日時：1998年11月19日午後6時半

場所：東京芸術劇場大会議室

会費：3,000円

1998年度最後の文化講座は楽しみなフィールドレポート。お誘いあわせの上おいでください。

4日(金)ダルベルジンテペの発掘調査 堀 暁・古代オリエント博物館研究部長

11日(金)内蒙古大岱地区遺跡群調査について 大貫 静夫・東京大学助教授

18日(金)寧夏回族自治区原州遺跡群の調査 谷一 尚・共立女子大学教授

いずれも金曜日の夜6時半から、1回受講料2千円。友人をお誘いの上御出でください。

現在ホームページを改善充実するべく話し合い中です。クラブの活動紹介だけでなく、ユーラシア関係団体の活動、情報提供、リンク先の充実、留学生やユーラシア各地の協力者とテーマチャットの実施など。

来年は、ユーラシアンクラブのインターネット元年になるよう努力します。

中央アジアの仏教遺跡カラテペ (ウズベキスタン) 発掘調査

加藤 九祚氏名誉教授 (ユーラシアンクラブ名誉会長) の遺跡調査支援後援会発足

加藤 九祚先生がここ数年継続している中央アジア仏教遺跡調査を本格的に支援する後援会が発足しました。調査継続の情熱に薬師寺の安田 咲胤副住職が応え、寺内に事務局を置くことを提案、加藤先生を慕い、支援する多くの人々が精神的、資金的に支援することになったものです。

加藤先生は、ここ数年、ダルベルジンテペ (ウズベキスタン)、クラスナヤレーチカ (キルギスタン) で発掘調査を継続、1998年春には、ウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所(所長ティムール・シリノフ博士)と共同で、ウズベキスタンの南端、アムダリヤ川北岸のテルメズにあるカラテペ遺跡(2-7世紀)を発掘、大型ストゥーパ(仏塔)を発見しました。これは玄奘三蔵が見たという伽藍の一つと考えられています。

共同調査は1991年から5年計画(第一次)でカラテペ遺跡を発掘し、保存する計画です。

「テルメズ(中央アジア)仏跡発掘調査後援会」の概要は以下のとおりです。

会長 井上 ふみ(作家井上 靖夫人)

副会長石毛 直道(国立民族学博物館館長)

二宮 洋太郎(バミール・中央アジア研究会会長)

安田 咲胤(薬師寺副住職)

顧問 江上 波夫(東京大学名誉教授) 梅棹 忠夫(民博顧問) 大林太良(東大名誉教授) 木村重信(兵庫県立近代美術館館長) 小松左京(作家) 佐々木高明(民博名誉教授) 佐原真(国立歴史民俗博物館館長) 下中邦彦(会社役員) 團伊玖磨(作曲家) 陳舜臣(作家) 樋口隆康(ならシルクロード学研究センター長)

松久保秀胤(薬師寺住職)

参与 安藤宏基(日清食品社長)ら43人

事務局長 加藤 朝胤(薬師寺執事)

事務局住所: 〒630-8563 奈良市西ノ京町457

法相宗大本山 薬師寺内

電話0742-33-6001 ファックス0742-33-6004

◆発掘調査、遺跡保存、研究、報告書完成のため後援会会員を募集しています

一口1万円(何口でも結構です)

後援会員として登録し、年度の調査報告を受け、報告書発刊の折にはご芳名を掲載させていただきます。

加藤先生は今年喜寿を迎えますが、今春は自らスコップを握って成果を上げました。「九さん」の本当の「不惜身命」の情熱を応援したいと思います。上記後援会には大野 遼も参与として参加している他、既に数人の方が会員になっています。多くの皆さんが後援会に参加されるよう呼びかけます。(大野 遼)

赤城山麓ユーラシア親善サッカー開催

ユーラシアンクラブ群馬県の会員後藤康子さんの全面的な協力を得て、12月5、6日、ウズベキスタン、ウイグル、キルギスタン、カザフスタン、モンゴルなどユーラシア各地から来日し勉強に励む留学生チームらと日本のサッカーファンとの親善サッカーを開催します。新潟県・湯之谷村の山小屋合宿でウズベキスタン留学生から提案があったのを浮け実施することになったので、新潟-東京間を「ユーラシア国際派」の多い地域に変えていこうという「ユーラシアンロード・回廊構想/ユーラシアレインボー計画」の一環として開催する。小出郷・湯之谷村で開催している芸能祭「ユーラシアコミュニケーションフェス」だけでなく、今後写真展、ミニコンサート、ホームステイ、など、理解、親睦、協力の催しを諸団体・機関と協力して開催していきます。今回の対戦相手は、群馬大学サッカー部、場所は群馬大学ですが、留学生との懇談、温泉交流なども予定されています。

日程、親善サッカーのユーラシア混成チームへの参加者及概要は以下のとおりです。

赤城山麓親善サッカー
—ユーラシア虹の架け橋構想①—

日時：12月5日(土)～6日(日)
場所：宿泊は赤城山麓
／群馬県、後藤康子さんの別荘
サッカー場所は群馬大学グラウンド

参加者：ウズベキスタン/クチハロフ ベグソド、アイエフ ディルラフ、アブド
ウコディオフ ルスタム、バフリディノフ マンスル、ウスマノフ ファルーフ
ウイグル/クティルク サビティ、クルバンジャン ロズ、プラットア
ブドワイト、ムタリフ アビリメティ、フルカット フェイズラ
モンゴル/ハグア
カザフスタン/カザフスタン大使館職員
キルギスタン/調整中
その他/クラブ日本人会員 (応援組含む)

東京アイヌ協会の浦川治造会長がアイヌ文化振興研究推進機構の助成を受けて建設していた伝統的茅葺住居「チセ」が完成した(ニューズウイーク前号既報)。15日、クラブ関係者5人も公開の催しに参加した。行事に参加したウズベキスタンの留学生、シェルゾール・ザヒドフさん(早稲田大学)に感想を投稿していただいた。

アイヌ、私が初めて知った人たち

シェルゾール/ザヒドフ

日本の秋、それは四季のうち最も美しいものの一つだ。今はその最盛期で“紅葉”とよばれる木の葉の時期だ。葉が木の枝から落ちる前に、黄色や紅、黄金色になる。いくらかはまだ青いままに残る、そしてそうしたもののすべてが美しい日本のカラーを作り出す。

人々は公園に行き、山を訪れ、寺院を旅して見廻ったりする。それらは“紅葉”をより身近で愛しむためなのだ。“紅葉”と比べ得るのはおそらく春の桜の花咲くころだけではないだろうか。全ての日本人が一年のこの2つの自然の頃を称賛している。

そしてこの美しい紅葉の日々の一日、ユーラシアンクラブの会員の皆さんの招きで、私はアイヌの伝統行事の祭に、山にやってきたのです。アイヌたちは、北海道からずっとこちらの北に住む人々だ。それまで私は、北海道に住むアイヌのような、自らの伝統文化に生きる人々が日本にいることさえ、全く知らなかった。確かになっていることには現代アイヌは北海道のみならず日本全国、南は沖縄から北は北海道まで住み着いていて、その数およそ2万人。

出し物はあきる野市の山あいの場所にある、ポンチセというところで行われた。行ってみるとそこには、葦で編んだ2つの小屋と、その前には板で作られた小さな舞台があった。

これらは山の斜面に設置されていて、舞台を支える長い柱が組まれ、その下には小さな川が流れている。舞台の上から下を見ても、川の中を魚が泳いでいるのが分かる。見た目は簡素で、美しく、同時に風景画のようで、回りの環境とマッチしている。祭りの主催者たちによって建てられたこれら2つの小屋は昔のアイヌたちが住んでいたときのように作られている。小屋の構造は日本の建築物とはことなっている。小屋の構造は日本の建築物とはことなっており、同様にアイヌの言葉も衣装も全く日本のそれとは似ていない。

私の感じでは彼らは、ロシアやアラスカに住むいくつかの北方の民族に近いようだ。

しかし、見せてもらったアイヌ衣装の模様の一つは、中央アジアのキルギスのものにとってもよく似ていて、そうしたものは、ロシア南部やアルタイ地方の人々にもある。

アイヌの宗教は、私が儀式から理解したところによると、多神教で、自然の事象一つ一つに神が宿るものとする。

またアイヌ人の外見は日本人とはことなり、見分けるのは簡単だ。男性は眉が濃く、女性の顔は丸っぽい。目のあたりも様子が違うが、肌の色や髪の色は日本人と同じで黒い。

演技は静かにしずしずと行われたので、剣を使った踊りにしても、相手と闘いはするが、アイヌ人は静かで平和的の民族だ、という印象を持った。儀式の出し物が終わった後で、伝統的なアイヌ料理が出されたが、それは、大体において、魚、カニ、昆布などの海産物から作られていた。

私は人生において初めて鹿の肉を食べた。肉を生で、私は生の肉というものは食べたことがない。それはうまかった。

アイヌやアイヌの客人たちと過ごした一日を、私は大変貴重なものとして記憶している。

私は初めて新たな民族の存在を知った。彼らは日本社会の一部であり、現在においても自らの文化を守り通している。

人間の文明というもの、多数派の民族やその文化からのみ、成り立っている訳ではない。それは同様に多くの少数の文化や民族によって豊かに色づけられるのだ。

世界にいろいろなものが存在し、それが世界をバラエティーに富ませ、おもしろいものになる。それこそが健全な道だろう。(訳:伊集院 隆介)

ユーラシアンクラブでは、地域の会員や理解者の協力で、留学生などユーラシアの若者が日本の家庭や暮らしを通して日本を理解し、また留学生を通してユーラシアを知っていただくとうとホームステイを紹介しています。これまで新潟県小出町、湯之谷村で、キルギス、サハの若者がホームステイを経験、喜ばれています。今回は、サハ在日代表部の研修生として訪れたアナスタートヴァ オリガさんが11月15日から25日まで、富山県の会員、東林勉さん、宮田浩行さんのご尽力で友人の三辺松夫、明美さん一家を含め3つの家族で受け入れていただきました。帰国の前日、オリガさんがホームステイへの感謝のメモを残しましたので掲載します。

富山旅行の印象

今回大野さんの紹介で富山に滞在し10日間生活することができました。ありがとうございます。

私は3つの家族と知り合うことができました。三辺さん、宮田さん、そして東林さん。また富山シティのその他多くの皆さんとも出会うことができました。皆さんが私に親切にしてくださったので自分の家にいるように感じました。本当に皆さんありがとうございました。

私が一番覚えていることは何でしょうか？素晴らしい自然、山々、雪化粧、住んだ空気。もっとも、滞在中の天候は大変よかったですという訳ではありませんでした。ほとんど毎日雨が降りました。それにもかかわらず、憂鬱だったりまた退屈だったりということはありませんでした。なぜならいつも素晴らしい、気配りのある人々が一緒にいてくれたからです。彼らのもてなしと親切を私はずっと覚えているでしょう。

富山にはほかの地域と同様、独特の言葉があり、英語学を専門にしていた私には日本語の方言の違いを知って大変興味深いものでした。

私の日本語学習という点では、一言お話ししておきたいのですが、ホームステイは無駄ではありませんでした。私は一層日常的で、普通に話される語彙を知って、実際の生活に必要な話し方もしくは会話の素養を得ました。

私は富山のグラススタジオにも訪問した。そこでは溶けたガラスが変形されて工芸品を作っていました。

市内巡りは、基本的に、車で移動したので、自信を持って、富山の道路はそれまで見た中で最も立派だと言えます。平坦で、清潔で広く、一番感じたのは、東京と比べ、静かで、車、人の渋滞もなかった。

そのほか私は、日本の台所、さまざまな料理の調理法を知る機会がありました。日本の料理はほとんど全てが気に入りました。日本料理は人間の健康に大変有益だと思います。

最後に、日本滞在について少しお話しします。私は明日(29日)、もう故郷に帰っています。日本の3カ月はあっという間のことでした。にもかかわらず、この短い間に私は十分に多くを知りた目にして、日本についての自分の考えを得るべく日本国内を旅行しました。科学技術、社会、政治及び日本人の生活諸分野の目覚ましい発展にもかかわらず、日本は、個性的で、独特の文化、伝統と習慣、古い歴史を有した尋常ならざる国のままです。だから”日出する国”は外国の観光客を引き付け、そしてなつかしく私も引き付けるのです。もし私にチャンスがあって将来また日本に訪問できる可能性が生まれたら、私は必ずその機会を利用するでしょう。

28. 11. 1998

東京にて アナスタートヴァ オリガ

「シルクロード自転車紀行・写真展」/地球と話す会

自転車でシルクロードを走破しようと、今年で第6次の遠征を実施した地峡と話す会が写真展を開催します。11月30日～12月18日(埼玉県大宮市の東京ガス夢・料理館)、1999年1月28日～2月4日(国立市立公民館)、2月12日～14日(セシオン杉並・杉並区)。問い合わせは、地球と話す会/〒186 国立市富士見台2-37-9-301、電話 042-573-7667、ファックス 042-573-7668。

会報・ニューズレター購読は年間2千円
財政的サポーター・正会員は年間1万2千円
問い合わせは、右記まで。

ユーラシアンクラブ

住所: 〒215-0013 川崎市麻生区王禅寺 2485-2-204

電話: 044-965-2536 ファックス: 044-965-2537

E-mail: PAF02266@nifty.ne.jp

ホームページ: <http://member.nifty.ne.jp/EURASIANCLUB/>